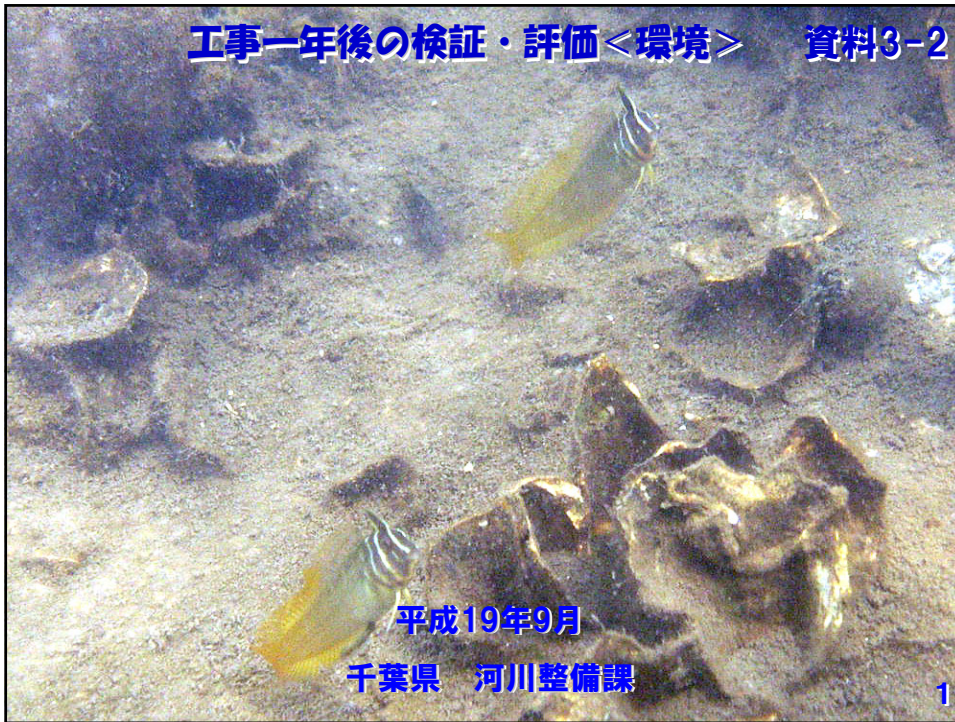


# 工事一年後の検証・評価<環境>

資料3-2



平成19年9月

千葉県 河川整備課

1

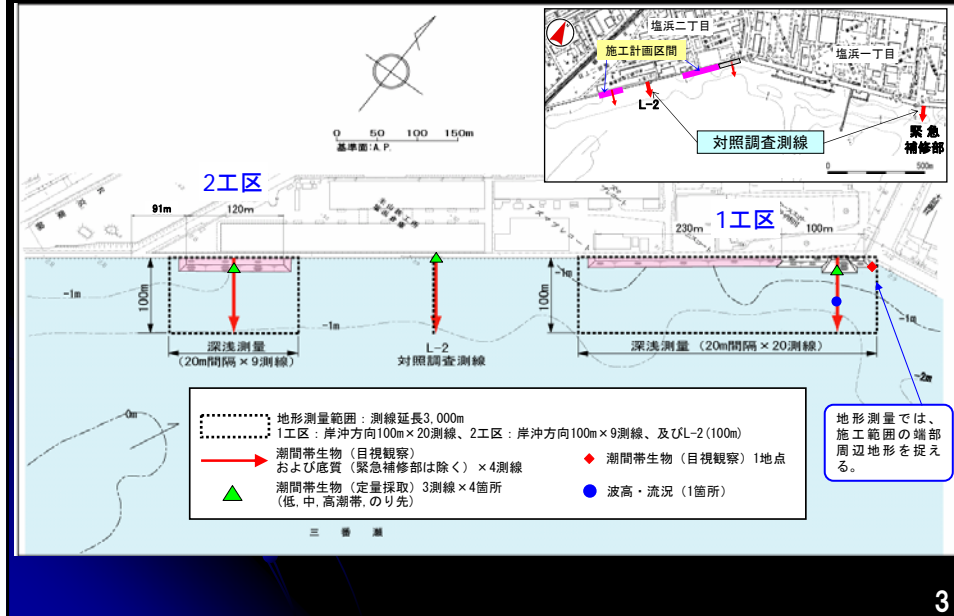
## 平成19年度のモニタリング調査計画

1工区: 施工後約1年  
2工区: 施工後約1ヶ月

区分	項目	目的	方法	時期(間隔)	備考
検証項目	地形	護岸部の張り出しによる周辺への物理的影響の把握 洗濯等による周辺地形の変化の把握等	地形測量	春季: 4月 夏季: 8月 の年2回	対照区: 岸沖方向100m × 20測線 = 測線延長2,000m 1工区: 岸沖方向100m × 9測線 = 測線延長900m L-2対照調査: 岸沖方向100m × 1測線 ※施工範囲の端部周辺地形を捉えるため、施工範囲の両側に測線を追加する。
	底質	粒径の変化の把握	採泥 ・粒度試験	春季: 4月 夏季: 8月 の年2回	・潮間帯生物(目視観測)調査の3測線で10m間隔で採泥(11検体、緊急補修部は除く): 合計33検体
	生物	潮間帯生物の定着状況※調査は公開とし、ライントランセクト法による観察は市民との協働で行うものとする。	ライントランセクト法による観察  採取分析	施工前: 4月 (H19) 施工後1ヶ月: 9月 (H19) 施工後5ヶ月: 1月 (H20) 施工後8ヶ月: 4月 (H20) H18年度施工箇所についても同時期に調査	・1及び2工区の中央部に1測線、対照区として測線L-2の1測線(100m)及び塩浜1丁目の緊急補修部の計4測線 ・石積護岸(斜面上): 方形枠(50cm×50cm)による連続目視観察 ・のり先から護岸距離10mまで1m間隔 ・のり先から護岸距離10~100mは10m間隔 ・第1工区の東側端部の1地点においても観察 ・1工区、L-2、2工区の3箇所における採取分析4検体 ・1箇所当り高、中、低潮帯、のり先の4検体
	景観	住民アンケート  ・施工中の周辺域との景観の調和 ・石積へのごみの堆積状況の把握	地元自治体住民より無作為抽出のアンケートを実施  委員、一般市民参加による見学会形式	8月 (H19)  施工後数回	地元市(市川、浦安、船橋、習志野)を対象としたアンケート調査(調査内容は、護岸検討委員会にて検討・決定)  実施時期については、完成後の経過時間と台風後などの状況を踏まえて決定する。
基礎情報	外力(波浪・流況)	・波高・波向の計測 ・流れの計測(海底面上約1m)	波高・流速計の設置	・9月 (H19) ・3月と4月 (H20) 最長2ヶ月×2回/年	・1工区の護岸前面の1箇所(30日~60日連続観測: 目的とする外力が把握される時点までとする)
	インパクト	・青潮時の溶存酸素量測定(生物環境への影響把握)	DO計による測定	青潮発生時	・1工区の完成断面石積のり先。未施工区間の直立護岸前面

2

## 平成19年度 モニタリング調査位置



3

## 個別目標:環境……周辺生態系の保全

### 目標達成基準1

マガキを主体とした潮間帯生物群集が、改修後の石積護岸の潮間帯に定着し、カキ殻の間隙が他の生物の隠れ場、産卵場などに利用され潮間帯のハビタットとして機能すること

4